

- ・眼疾患：炎症，充血性の痛み，右眼，視力障害を伴うことがあります。字が消えたり読書がしにくい，視覚に点が見えるなど。片頭痛で悪化します。
- ・難聴：急な耳管閉塞，耳鳴り，シーツという音が聞こえることがあります。

・どもり

■呼吸器系

- ・鼻感冒：多量の黄色い鼻汁が出て，嗅覚が鈍くなります。
- ・嗄声
- ・気管支炎：痰で喉がゼロゼロします。痰がからんでなかなか取れません。病変が肺に至ると，胸がゼーゼーして，吸気や労働で悪化します。夜に悪化する傾向もあります。

■消化器系

- ・アフタ性口内炎：食事で悪化します。冷たい飲物で改善
- ・舌炎：舌に痛みがあります。月経で悪化する傾向があります。
- ・咽頭炎：喉の痛みで，何かが引っかかっているような感覚があります。
- ・齲歯
- ・食道癌

- ・便秘：腹痛を伴います。

■生殖器系

- ・勃起不全，前立腺肥大，精巣炎

■その他

- ・高血圧：動悸がして，心臓に痛みがあり，喉の左側に広がります。胸が締めつけられる感覚があります。
- ・胃炎：吐き気でクラクラします。胃に痛みがあります。腕を胃の前で組むと楽に感じます。
- ・湿疹：皮膚が乾燥しています。
- ・白斑
- ・首の痛み，肩凝り，手のふるえ
- ・足の痛み：痛みが波のように5～10秒ほど続きます。打撲様の痛みがあります。
- ・膝の痛み：膝を突くと痛みが増します。

MODALITY

- ▶ 乾燥した気候，外気，暑さ，あくび，臭い，冷たい飲物など
- ◀ 寒さ，湿気，触られること，脂っこい物など

●主なモリブデンのレメディ

Molybdenum metallicum, Molybdenicum acidum, Molybdenum muriaticum

Moschus moschiferus 麝香(ジャコウ) [失神と寒さ]

Moschus moschiferus L. male

BACK GROUND

Moschusは，天然の麝香が原料になります。麝香は，ジャコウ鹿の雄の生殖腺分泌物である麝香腺と，その中に含まれる褐色から黒褐色の分泌物を切りとって乾燥させたものです。ジャコウ鹿から麝香腺ごと切り取ったものを玉麝香（別名，整麝香，整香，毛香，臍麝香とも呼ばれています。直径3～7cm），麝香腺内に含まれる麝香だけを取り出したものを身麝香（別名，麝香仁，散香，当門子など）といいます。麝香は，漢方薬として2,000年以上前から高貴な薬とされ，さまざまな薬効が知られています。

ジャコウ鹿は，ヒマラヤ山岳地帯やチベット高原地帯に代表される中国雲南，四川省，ネパール，チベット，ブータンなどの，海拔4,000～5,000mの高地に生息しており，非常に用心深い動物です。現在，ジャコウ

ウ鹿の雄の数は雌の数の10分の1くらいと言われています。

ジャコウ鹿は，鹿の中では原種に近いとされ，体重は7～20kg程度です。雄雌ともに角はありません。夜行性で，食生活はさまざまな草や芽，花，岩に付いた苔などを食べています。とくにジャコウ鹿は，生息地によく生えているセリ科の植物，Ferula sumbulを好んで食べます。この植物の根は麝香に非常に近い香りがします。

雄は，非常に縄張り意識が強く，自分のテリトリーにある木や岩におしりを擦りつけて，臭いをマーキングしていきます。雄は3歳くらいまでに，腹部の麝香腺が発達していきます。麝香の香りは雄のジャコウ鹿が発情期に雌を誘引する目的と，縄張りのためのマーキングで発するものです。麝という漢字は鹿を射ると

書いて、この香りが矢のように遠くまで飛ぶことを表わしており、麝香の香りの強さをうまく表現しています。発情期は、1月にやってきて、雌は180日の妊娠期間を経て、1頭（稀に2頭）の仔をもうけます。生まれた子供は、はじめの2か月間を安全な隠れ家の中で過ごします。約2年で性成熟を迎えます。

麝香は、ヨーロッパでも古くから高級香水の原料として珍重され、Musk（ムスク）と呼ばれています。天然の麝香は、漢方でも重要な薬になり、非常に貴重で高価なため、近年は実際に香水などには使われることはありません。現在、香水に含まれるムスクは、人工合成された同じような香りを発するものです。天然の麝香の香りの主成分は、環状ケトンのムスコンというものですが、一般に出回っているムスクは、それに似せてつくられた環状ムスクという構造の少し異なる合成品です。

このように麝香は昔から高貴な神仙薬、媚薬、香料として洋の東西で使われ、そのために、年間15,000頭ものジャコウ鹿が殺されてきましたが、近年、ワシントン条約により捕獲が禁止されています。また、麝香自体もワシントン条約の指定品目となっていることから、輸出国の証明書付きではんのわずかな量しか輸出入されていません。香りを非常に強烈に放つものほど、良質の麝香と言われています。

麝香の成分には、香りの主成分であるムスコンをはじめとして、強い強心作用を示すムスクライドA1、ノルムスコン、ムスコピリジン、ハイロドキシムスコピリジン、アンドロスタン誘導体、男性ホルモン、C19-ステロイド、プロテインキナーゼC、ナトリウム・鉄などの各種ミネラル、パラフィン誘導体、アンモニア化合物、各種アミノ酸、コレステロールなどが含まれています。

麝香の薬理作用は、中枢興奮作用（呼吸中枢や心臓の興奮作用）、血圧降下作用、男性ホルモン様作用、抗炎症作用、抗トロンビン作用、抗ヒスタミン作用、鎮静作用などがあります。

昔から蘇生薬の代表として、また、全身の気の流れを強め、経絡の滞りを開き、生命力が極端に落ちているときに活力を与え、悪い影響を及ぼす邪気を取り除くといわれています。不老長寿から小児の風邪、解毒、精神安定、疲労回復、冷え性、呼吸困難、脳血管障害などに、幅広く使われた貴重な薬とされています。

MIND

Moschusタイプは、若い女性が多く、ヒステリーで心気症の傾向があります。わずかな刺激にも大げさに反応し、失神することがあります。とても怖がりで、

病気になると死んでしまうのではないかと非常に心配します。冷え性です。せかせかしていてすぐに興奮し、笑い出すと止まりません。短気でちょっとしたことですぐに怒ります。ひどく怒ると顔が青くなってしまいうまで怒ります。性的な強い興奮を感じることもあります。食べ物では、チーズが大好きですが、食事はあまり好きではありません。ブラックコーヒーやビール、ブランデーを好みます。このタイプは、甘やかされて育った人が多く、わがままで頑固で自分のことばかり考えています。自分の気まぐれの満足のためには、ずるい手段を取ろうとします。

AFFINITY

Moschusは、主に中枢神経系（とくに感覚器と生殖器）と泌尿生殖器系、呼吸器系、循環器系に親和性をもっています。

CLINICAL APPLICATIONS

失神と寒さがキーワードです。その根底には麝香に象徴される性的なチャクラの影響が隠れています。

■神経系

・失神：ちょっとしたことですぐ失神する場合はこのレメディーです。そのため、いつも深呼吸をしたがる傾向があります。

・ヒステリー

・筋肉の痙攣

・不安症：病気になると死んでしまうと考えます。

・冷え性

・神経性のしゃっくり、心因性の聴覚障害

■泌尿生殖器系

・多尿：昼の尿はきれいなのに、夜になると暗赤色になり、尿臭がきつくなることがあります。糖尿病の例もあります。

・強い性的興奮

・勃起不全

・精液漏

■呼吸器系

・喘息発作：ヒステリーによって誘発されます。

・急性の喘息発作

・咳：呼吸困難になることがあり、痰をなかなか出すことができません。

MODALITY

➤ 外気、さすること、暖かさ、麝香の香りを嗅ぐことなど

❏ 寒さ、興奮、生理、寒い外気、運動、公共の場にいること、性交、患部の圧迫、食事中と食後など

RELATIONS

- ・ Antidotes : Camphora, Coffea
- ・ Compatible : Ambra
- ・ Sumbul : このレメディは、Musk rootと言われる麝香の香りをもつ植物が原料となっています。興味深いことに、ホメオパシーでの適用は Moschus と類似しています。

参考) エドガー・ケイシーの症例で、少しのことですぐに失神してしまう例がありました。これの原因については、過去の性的な放縱に起因すると言明し、治療は成功した記録が残っています。このように失神やヒステリーは性的な問題が根底に隠れていることがあります。Moschusは、この深い部分にも作用していきます。ただし、こういった問題に絡む精神的な問題に関して、さらにホメオパシー以外の方法も併用する必要があります。

Murex purpurea ツロツブリとシリアツブリボラ [女性の不調]

Hexaplex trunculus L.

Bolinus brandaris L., Murex brandaris

BACK GROUND

Murex purpureaは、腹足綱前鰓亜綱新腹足目アクキガイ超科アクキガイ科に属する巻貝、Trunculus murex ツロツブリと Purple dye murex シリアツブリボラの、2つの貝から得られる分泌物によってつくられます。ツロツブリは、主にキプロス南沿岸が原産で、シリアツブリボラは、地中海、北西アフリカの沖合の砂底に生息しています。

古代に乱獲されたために、現在では深い海でしか獲ることができません。よく間違われることがあるムラサキガイは、貝殻色が紫色の二枚貝で、貝紫が採れる巻貝とは、まったく別物です。

これらの貝からは、古代フェニキアの重要な特産品である Tyrian purple チリアンパープル（貝紫）という染料がとれます。Tyrianは、フェニキアの貝の産地にある港の名前です（この貝紫に使用できる貝は、世界中に推定300種類以上いるといわれています）。古代フェニキアのチリアンパープルの使用は、紀元前1600年頃から始まったといわれています。この染料を取り出すために、貝を割って加工していました。ただこれらの貝は小さいために、一度に取れる染料の量はわずかなもので、1万個の貝をつぶして得られる色素はたったの2〜5gでしたから、非常に高価で貴重なものでした。そのために乱獲されて、激減してしまったようです。他の地方、たとえばアメリカの西海岸では、アメリカ先住民は、地中海の人々がやっていた貝を砕いて染料をとるような乱暴な方法でなく、綿糸の束の上に貝を置いて叩き、貝が殻に身体を引き込むときに鰓下腺から放出される粘液を糸に塗りつける、という方法をとっていたそうです。その後、貝たちは

海に戻したそうです。

これらの貝から得られた粘液に布を浸して、それを太陽に曝すという作業を何度何度も繰り返すことによって、鮮やかな紫色になります。

チリアンパープルは一度染めたら色落ちしない、希少であること、呪術に用いられたことなどから珍重され、高貴な色として高く評価されました。ローマ時代には、カエサルがチリアンパープルの服を着る権利を独占し、ローマの皇帝や元老院議員だけが用い、「帝王紫」とよばれて、皇帝の色となりました。中世では、皇帝だけでなく聖職者の高位にあるものが着用するようになりましたが、ビザンチン帝国の崩壊とともにその使用が禁止され、ほかの染料に切り換えられていきました。

チリアンパープルは、これらの貝の鰓下腺であるパープル腺にある6, 6'-ジブロムインディゴを取り出して、染色して得られる色のことです。この分泌液は酸化されると紫色に変化します。学名のPurpuraという属名は紫色という意味です。

この分泌液には、6, 6'-ジブロムインディゴのほか、セロトニン、ミュレキシシン、銅、亜鉛、カドミウムをはじめとする各種ミネラルなどが含まれています。この中のミュレキシシンは、クラール様作用やニコチン様作用が認められています。毒性はありません。

MATERIAL

分泌物を乾燥させ、乳糖と混ぜ合わせたもの

FIRST PROVING

Ptroz